



みやじ拓馬 国会通信

■初の自民党総裁選を経て

挙党態勢で日本の未来を切り拓く

9月7日から20日までの14日間にわたり、私にとって初めての総裁選が実施されました。安倍晋三候補と石破茂候補との一騎打ちの結果は、ご承知のとおり安倍総理の勝利に終わりました。

その間、所信表明や各種討論会、街頭演説等を通じて、ポスト2020に向けた経済政策、社会保障制度改革、地方創生、外交・安全保障政策など、我が国の重要課題について熱い論戦が繰り広げられました。

我が自民党の良き伝統は「戦いが終わったらノーサイド」です。今後は挙党態勢の下、まずは今夏に相次いだ自然災害からの復旧・復興に全力を尽くすとともに、来年に控える歴史的皇位の継承や史上初のG20サミットの日本開催を含め、我が国が抱える待ったなしの重要課題に対し、一つ一つ結果を出し、日本の未来を切り拓いてまいります！



(9月20日 自民党本部)

■大田弘子先生を講師に迎え

国政を語る会を開催

8月21日、政策研究大学院大学の田田弘子先生を講師にお迎えし、7回目となる「衆議院議員 宮路拓馬君と国政を語る会」を開催させていただきました。

大田先生は母校・鶴丸高校の先輩であり、私が総務省に勤務していた頃の第一次安倍・福田

政権下では、民間出身の女性閣僚として経済財政政策担当大臣の要職にも就かれていた方です。

今回は「日本経済の挑戦～大転換期をいかに乗り切るか～」と題し、世界経済の動きについて分かりやすくご説明いただいた上で、我が国の社会経済の抱える問題に鋭く切り込まれる一方で、その処方箋にも言及いただき、出席された方々からも大変ご好評をいただきました。

母校の先輩から大いなる刺激を受け、これからも精進してまいります！



(8月21日 自民党本部)

■サッカーW杯に合わせフットサル

コロンビア・セネガル・ポーランドと対戦

7月2日、開催中のサッカーW杯ロシア大会のグループリーグ対戦国であるコロンビア・セネガル・ポーランドの大使館チームとのフットサルの試合に、日本代表チーム（サッカー外交推進議員連盟）の一員として出場しました。

コロンビアには3対5で敗れ、セネガルには圧倒的なフィジカルの差を見せつけられて2対10の大敗！最後の日本・セネガル合同チーム対コロンビア・ポーランド合同チームの試合では4対2で勝利と、なんとか一矢を報いることができました。

サッカーW杯では、日本代表が1勝1分1敗の成績で見事グループリーグを突破しましたが、一方で我々の結果は各国との親善に寄与

することになったのでは、と勝手な解釈をしています(笑)



(7月2日 都内フットサル場)

■自民党青年局「全国一斉街頭行動」 拉致問題の解決に向け熱く訴える

6月3日、自民党青年局の「全国一斉街頭活動」として、北朝鮮による拉致問題の解決に向け、自民党鹿児島県連青年局の同志とともに街頭演説を行いました。

横田めぐみさんが北朝鮮により拉致されてから40年の歳月が流れました。鹿児島からも市川修一さんと増元るみ子さんが拉致の被害者となりました。もはや一刻の猶予も許されません！

史上初の米朝首脳会談が開催され、今後北朝鮮問題が大きく動きうるこの時期だからこそ、国民一丸となって「拉致問題を必ず解決する」との強い意志を北朝鮮と国際社会に示さなければなりません。

今後とも拉致問題の解決に向け、微力を尽くしてまいります！



(6月3日 鹿児島中央駅前)

■文部科学委員会において初質問 文科省設置法改正案について

5月23日、文部科学委員会において、文科省設置法改正案について質問に立たせて

いただきました。

本法律案は文化庁の京都移転(明治維新以来初となる中央官庁の地方移転)に伴い、その機能を充実・強化しようとするものです。

文科委では初めてとなる質疑となりましたが、郷土の大先輩・森有礼初代文部大臣に恥じない充実した質疑を行うことができました。

引き続き、政策の幅を広げるべく、精進してまいります！



(5月23日 衆議院第15委員室)

■硫黄山の噴火災害について質問 農林水産委員会にて

5月10日、農林水産委員会において、硫黄山噴火による農林水産業への影響とその対策について質問に立たせていただきました。

噴火に伴うヒ素等の河川への流入により、伊佐市・湧水町などにおいては、一部今年の水稲の作付けを断念せざるを得ない状況となりました。

質疑においては、生産者の皆様が希望を持って生産活動を継続するための支援策について政府の考えを質しました。

硫黄山の噴火は依然としてその影響が続いています。抜本的な対応策を含め、今後ともきめの細かい対応を可能とすべく、議論を続けてまいります！



(5月10日 衆議院第17委員室)